

<再評価>

事業名 (箇所名)	広域河川改修事業(多々羅川)	担当課	河川整備課	事業主体	徳島県					
		担当課長名	赤堀 良信							
実施箇所	徳島市新浜本町～勝占町									
該当基準	再評価実施後一定期間(5年間)が経過している事業									
事業諸元	全体計画延長L=4,560m (築堤23,300m <sup>3</sup> 、掘削 260,000m <sup>3</sup> 、護岸 6,400m、堰1基、樋門樋管2基、道路橋6橋等)									
事業期間	昭和54年度～平成38年度(西暦1979～2026年)									
総事業費 (億円)	83億円	残事業費 (億円)	30億円							
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <p>①近年被災履歴:S36(第2室戸台風)、S46(台風24・26号)、S51(台風17号)、H16(台風23号)</p> <p>②最大浸水戸数:床上浸水68戸、床下浸水54戸(H16台風23号)</p> <p>③最大浸水面積:275ha(H16台風23号)</p> <p>・上流域では河道断面の疎通能力は極めて小さく、過去から浸水被害が多発し、多数の家屋の浸水被害とともに県道宮倉徳島線が冠水・通行止めとなっている。</p> <p>・これまでに大松川を含む下流側の区間L=3.1kmの河道改修が完了している。</p> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <p>・過去に発生した洪水、河川規模、流域資産、県内他河川とのバランスを考慮し、河川整備計画目標規模の洪水(年超過確率1/10)の規模の洪水を安全に流下させる。</p>									
便益の主な根拠	浸水軽減戸数:507戸 浸水軽減面積:88ha									
事業全体の投資効率性	基準年度		平成30年度							
	B:総便益 (億円)	242.2	C:総費用(億円)	167.3	B/C	1.5	B-C	75.0	EIRR (%)	5.1
残事業の投資効率性	B:総便益 (億円)	242.2	C:総費用(億円)	29.6	B/C	8.2				
感度分析	残事業(B/C)		全体事業(B/C)							
	残事業費(+10%~-10%)	7.5 ~ 9.0	1.4 ~ 1.5							
	残工期(+10%~-10%)	8.0 ~ 8.4	1.4 ~ 1.5							
	資産(+10%~-10%)	9.0 ~ 7.4	1.6 ~ 1.3							
事業の効果等	<p>・河川整備計画目標規模の洪水に対して、浸水家屋507戸解消され、氾濫面積88haが軽減される。</p> <p>また事業実施前には災害時要援護者が656人、最大孤立者数が773人、電力停止による影響人口が371人と想定されるが、事業実施によりこれらが解消される。</p> <p>・上流部(文六町)に水位計が設置されており、市や住民による避難の判断等に活用されている。</p>									
社会経済情勢等の変化	<p>・地域開発の状況:流域内には徳島市の市街地化区域があり、今後も開発が進むと予想される。</p> <p>・地域の協力体制:市と連携して用地買収等に取り組むなど、事業の進捗を図っている。</p> <p>・地域の事業に対する社会的評価:流域の開発が進み、治水安全度向上について地元住民から強い要望がある。</p>									
事業の進捗状況	・昭和54年度より事業に着手し、平成30年度末で進捗率は63%(事業費ベース)である。									
事業の進捗の見込み	・市町と緊密に連携した情報共有や、用地買収等に関する協力体制を整えることで、事業を推進する。									
コスト削減や代替案立案等の可能性	・設計段階では比較検討を行い、施工段階では掘削土等の有効活用することで、コスト削減を図る。									
対応方針	継続									
対応方針理由	・度重なる浸水被害が生じている多々羅川流域の浸水への対策を目的とした事業であり、現段階においても、事業の必要性は変わっておらず引き続き事業を継続することが妥当と考える。									
その他										